昭和41年8月1日　第4種学術刊行物認可
ISSN 0021-8588

農業氣象

Journal of Agricultural Meteorology

日本農業気象学会50年の歩み
Fifty Years of the Society of Agricultural Meteorology of Japan

Vol. 49, Special Number
1993. 6

第49巻　特別号
平成5年6月刊行

日本農業気象学会
The Society of Agricultural Meteorology of Japan

4.6 若手研究者の会

岡 野 通 明（農林水産省森林総合研究所）

50年を迎えた本学会にあって，農業気象学会若手研究者の会(以下，若手の会)は，前身の「若者の集い」として活動を行なってきた期間を含めても20年に足らない文字通りの“若手の会”である。

全国大会あるいは支部大会の際に若年研究者や学生が集い，訪れた街で酒を酌みながら自由に意見を述べ交流を深めてきたことは，若手の会発足以前から散発的ながら行なわれてきたという。

最初に若手研究者の集会として若者の集いの参加の呼びかけがあったのが昭和52年の盛岡大会であり，坪井八十二名誉会員(当時東北農業試験場長)を招いて若者への叱咤激励を拝聴したとある。翌昭和53年にも大阪大会の折に若手研究者による集会が行なわれている。

このような助走期間を経て，昭和54年の松戸大会では正式に第1回「若者の集い」が宣言された。当時の案内状によると，“明日の農業気象学会を担う”若者たちが，“農学，農業気象学のあり方や研究への抱負，不満”について自由な意見を交わそうという主旨で参加が募られた。参加資格“自称20代の方で昼食ぬき”の若手研究者が白昼から“十分に用意された飲み物・食べ物”を前に，“食べ放題の焼肉屋”で“堅苦しくない”交流をはかった様子は，参加者の記憶が殆どなく僅かを伝え聞くのみである。

当時の若手の会では，某先生が常連となっている店へ皆で繰り出しツケで懇親会と称する宴会を催してしまったり，招いた講師が懇親会で“酔った勢いで…”といった噺が残っているなど，いわば黎明期の良い時代でもあった。尽力された岡田益己氏（当時東大）や原薗芳信氏(当時大阪府大)らを中心とする幹事連が数年にわたり基盤を整えられ，若さの溢れる活動が行なわれていたことは，その頃より次第に増えていく会の保存記録にも伺い知ることができる。

昭和55年々末発刊の農業気象第36巻3号には，第3回若者の集いの告知が「お知らせ」欄に初めて掲載されたことで会の存在が多くの会員の知るところとなった。昭和58年の松山大会時に開催された第5回若者の集いにおいて活動案の討議等が行なわれるとともに，大会後の評議員会では学会本部から活動補助金の醵出が承認され，研究部会と同様の扱いを受けることとなった。現在では第一線の中堅研究者として学会を担っている当時の若手研究者らの，農業気象の研究に新風を吹き込みたいという努力が実を結ぶと同時に，若手の会の運営に責任を負うことになる。学会誌上の報告では「農業気象若手研究者の会」の名が仮称ながら初めて使われた。

農業気象39巻2号ではお知らせとして，“自ら若いと認める”ことだけが入会資格である等の若手の会紹介と，「Autumn Seminar ―環境要因と作物生育を考える―」シンポジウムの案内が掲載された。この第1回セミナーは昭和58年11月に東京大学農学部で開催された。起案から開催までに取り交わされた文書が当時の幹事の苦労を伝える資料として保存されている。甲斐あって約40名の参加者を集めた初のセミナーは一部では夜を徹した議論もあったと，成功裡に行なわれたことが報告された。第2回セミナーは翌昭和59年11月10日に滋賀県琵琶湖研究所で「生態学的環境と農業生産を考える」をテーマに開催されている。

昭和60年の大阪大会に沿って行なわれた討論会では，軌道に乗ってきた活動の方向を再確認するとともに，若手としての研究テーマの選択や取り組みかたについて議論された。定期的な交代として2期目の幹事を選出したこのころを境に，初期に活躍された会員からより若い次の世代に運営が任されるようになる。

その後も研究会は精力的に行なわれ，若手に相応しい新たな研究分野を模索するものから，主催地の地域性を生かしたものまで幅広いテーマで討論されている。

現在では大会時に行なわれる懇話会・懇親会の他，およそ隔年に行なわれる研究セミナー開催というスタイルが定着しつつある。また近年の大会が合同共催の形をとること，多数の研究者がかけもちで入会していることなどから，関連学会の若手研究者とも交流を深めようとする試みが行なわれている。

2年毎に引継がれる幹事を降りるとそれぞれの職場での研究に専念する年齢になるのであろう，次第に“卒業”されていくが，懇話会に飛入りで話題提供をしてくれたり，懇親会に出席してくださる元気の良い先輩方が毎回数名は駆けつけてくれる。後輩の奮起を期待してか，はたまた昔取った杵柄で会の腑甲斐なさに活を入れるためかは分らないが，どちらにしても有難い存在ではある。最後に，農業気象学会若手研究者の会では熱い議論は今だに健在であることをお伝えするとともに，今後ともキツーい御指導をお願いする次第である。

若手研究者の会年表

年度	幹事	研究会・懇話会・シンポジウム等			
		開催期日	開催場所	主要テーマ等	備考
昭和（西暦）52（1977）	岡田　益己（東　大）他	1977. 6.	盛岡・岩手大学	懇話会	
53（1978）	原園　芳信（大阪府大）他	1978. 5.25	堺・大阪府大	懇話会	
54（1979）	林　真紀夫（千葉大）他	1979. 4. 4	松戸・千葉大	第1回若者の集い　懇話会	
55（1980）		1980. 4. 6	名古屋・名大	第2回若者の集い　懇話会	
56（1981）	仁科　弘重（東　大）他	1981. 4. 2	東京・東　大	第3回若者の集い　懇話会	
57（1982）	朝倉　利員（果樹試）他	1982. 5.12	筑波・農技研	第4回若者の集い　懇話会	
58（1983）	原園　芳信（大阪府大） 北宅　善昭（大阪府大） 羽生　広道（生環技研） 仁科　弘重（東　大）	1983. 4. 6	松山・愛媛大	第5回若者の集い　討論会	
		1983.11.12	東京・東　大	第1回セミナー「環境要因と作物生育」	
59（1984）	谷　宏（北　大）	1984. 5.16	福岡・ガーデンパレス	第6回若手の会　懇話会	
		1984.11.10	大津・琵琶湖研	第2回セミナー「生態学的環境と農業生産を考える」	
60（1985）	本條　毅（東　大） 松村　伸二（香川大） 朝倉　利員（果樹試） 宮田　明（北農試）	1985. 5.30	堺・大阪府大	第7回若手の会　討論会	
		1985.11. 9	筑波・農環研	第3回セミナー「コンピュータの農業への新たな応用を考える」	
61（1986）		1986. 5.31	鶴岡・山形大	第8回若手の会　懇話会	
		1987. 1.30	札幌・気象協会	第4回セミナー「積雪寒冷地の環境問題と農業」	
62（1987）	松岡　延浩（北　大） 高市　益行（大阪府大） 菅谷　博（北陸農試） 星　岳彦（電中研）	1987. 4. 4	藤沢・日　大	第9回若手の会　懇話会	
		1987.12.11	我孫子・電中研	第5回セミナー「バイオテクノロジーにおける工学的アプローチ」	
63（1988）		1988. 4.14	那覇・自治会館	第10回若手の会　懇話会	
		1989. 1.14	堺・大阪府大	第6回セミナー「リモートセンシングの技術の実際とその応用」	
平成（西暦）元（1989）	後藤　英司（東　大） 土屋　和（農園資研） 町村　尚（北　大） 平野　高司（大阪府大）	1989. 7.26	筑波・筑波大学	第11回若手の会　懇話会	
2（1990）		1990. 8. 7	札幌・北　大	座談会「農業気象研究における情報管理法」	情報システム研究部会と共催
		1990. 8. 9	札幌・北　大	第12回若手の会　懇話会	
3（1991）	岡野　通明（森林総研） 青野　靖之（大阪府大） 濱嵜　孝弘（東北農試） 富士原和宏（千葉大）	1991. 4. 8	堺・じばしん	第13回若手の会　懇話会「海外における研究交流・留学」	
4（1992）		1992. 7. 5	盛岡・岩手大	第14回若手の会　懇話会「東北の雪と霧」	